

マラッカ・シンガポール海峡に関するシンガポール会議について（経緯等）

- マラッカ・シンガポール海峡（以下、「マ・シ海峡」という。）は船舶交通が輻輳する世界有数の国際海峡であり、世界貿易にとって重要な海上輸送路です。
- また、我が国輸入原油の８割以上がマ・シ海峡を経由して輸送されるなど、我が国の経済・社会にとって極めて重要な海峡であり、一旦事故が発生し海上輸送が滞れば日本経済に大きなダメージとなります。
- このようにエネルギー安全保障上も重要な海峡であることから、先月、安倍首相がインドネシアとマレーシアを歴訪された際に、ユドヨノ大統領とアブドゥラ首相との間で、安全確保に努めることを再確認しております。
- これまで我が国は、主要な海峡利用国として、日本財団、日本船主協会、石油連盟、日本損害保険協会等からの支援により、主に民間団体であるマラッカ海峡協議会を通じ、航路標識の整備・維持管理、浅瀬の浚渫、沈船の除去など沿岸国の安全対策を支援してきました。しかし、アジアの経済発展などを背景に、海峡の通航量が大幅に増加していることから、安全対策の強化が必要となっています。
- マ・シ海峡は、我が国にとって極めて重要な海峡であるにも関わらず、インドネシア、マレーシア、シンガポールの領海間にあり、各沿岸国の主権の問題が深く関係していることから、航行安全、セキュリティ及び環境保全に関する沿岸国と利用国との協力のあり方等については、必ずしも十分に議論されていない状況が続いていました。我が国としては、マ・シ海峡の安全を確保するためには、幅広い利用国や利用者等が参加する新たな国際協力の枠組み作りが必要であることを訴えてきました。
- このような中、ＩＭＯはマ・シ海峡沿岸三カ国との協力による同海峡の航行安全、セキュリティ及び環境保全を推進するための取り組みを意図し、同海峡沿岸国との共催により、「マラッカ・シンガポール海峡に関する国際会議」を一昨年から開催しており、今回のシンガポール会議は第３回目（最終回）となります。
- シンガポール会議では、昨年のクアラルンプール会議において沿岸国から提案があった「プロジェクト」や沿岸国と利用国等の国際協力の新たな枠組みである「協力メカニズム」等について議論がなされ、合意形成が図られました。
- 我が国からは、海峡の通航量に関する将来予測や協力の枠組みのあり方等について、プレゼンテーションを行うほか、マ・シ海峡における「航行援助施設」や「小型船舶用自動識別システム」に関する沿岸国提案のプロジェクトについて、支援を表明しました。